映画「日本と原発」上映会とシンポ

「原発ノー」の先は？

福高生の質問で議論白熱

原発訴訟に取り組む河合弘之弁護士が監督した映画「日本と原発」の上映会とシンポジウムが7日、福島市であった。高校生が投げかけた素朴な疑問から議論が白熱。観客もまじえ、脱原発を訴える映画から感じたことを語りあった。

映画の監督を務めた河合弘之弁護士（右端）の説明を熱心に聞く福島高校1年の菅野新さん（左端）＝福島市曽根田町

「日本と原発」は原発事故後に自死した避難者の遺族や原発技術者、経済学者へのインタビューなどをもとにしたドキュメンタリー。原発の危険性や官僚や電力会社による「原子力ムラ」の問題点を指摘する。

シンポには河合弁護士、会津電力の佐藤弥右衛門社長、福島高校1年の菅野新（あらた）さん(16)ら5人が登壇。菅野さんが「原発がダメという議論は理解できるんだけど、否定した先に何があるのか」と問うと、河合弁護士は「原発事故が起きれば日本は滅びかねない。自然エネルギーと省エネによって国を回していく。経済を復興させながらハッピーになれる」などと応じた。

観客からは「東京電力が責任をとっていないことが問題」「これだけの事故を起こしたのだから、反対する気持ちをもって行こう」といった意見が出た。

上映は福島市曽根田町のフォーラム福島で、13日まで。午前10時と午後6時40分の2回。

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。